



「加古川に飛行場？」

11月8日午後、加古川市立尾上公民館で「加古川飛行場跡説明板」「平和祈念之碑」の除幕式が催されました。

加古川に飛行場という、「何をおかしなことを」と思うかもしれません。しかし、今から約70年前に加古川市尾上町に500～1700mの滑走路5本、総面積約150haの加古川飛行場が存在していました。当時の尾上村の総面積の約4分の1を占める規模でした。滑走路が三角に交わるため、三角飛行場、地元の名をとって尾上飛行場と呼ばれたりもしました。飛行場の完成は1937年（昭和12）、日中が全面戦争となった直後のことです。当時は柏（千葉県）、菊池（熊本県）の2飛行場と並んで、全国の三大防空拠点の位置づけで重要な役割をはたしていました。

兵庫県には、他に当時軍用として伊丹・鶴野（加西市）・三木（三木市・加古川市）・由良（南あわじ市）飛行場が存在していました。

戦局は日本に不利な状況となり、加古川飛行場で特別攻撃隊が編成されました。その士官たちが宿泊したのが、寺家町にあった陸軍指定旅館の中村家です。関係する記念碑が鶴林寺に移設されたのが今年の話です。

浜の宮公園には、加古川飛行場の航空通信隊があり、現在の公園内に兵舎の基礎跡が残っています。加古川北高校の所在地水足にも高射砲部隊、神野には通信隊・弾薬庫があったとされています。今は痕跡をたどることはできません。

今年は戦後70年ということで、各地でさまざまな催しが行われています。加古川にもこれだけの戦争遺産が存在しています。最近、研究が進んできた分野ですので紹介しました。

